

1. 調査要項

調査地点 仙台市若林区木ノ下 3 丁目

調査期間 令和 7 年 5 月 15 日～8 月 8 日（予定）

調査原因 国庫補助事業による遺構確認調査

調査面積 約 300 m²

2. 調査概要

調査区は陸奥国分寺跡北東部に位置する。陸奥国分寺北東部における内部施設を確認するため調査区を 4 か所設定した（②図）。本調査で検出された主な遺構は以下の通りである（③図）。1 区では、中央部で SB1 掘立柱建物跡 1 棟が検出された（①写真）。規模は東西 1 間以上（総長 2.2m、柱間間隔 210～220cm）、南北 4 間（総長 12.2m、柱間間隔 300～310cm）で、南面に廂が付く可能性がある。柱穴掘方の規模は一辺 140～200cm の隅丸方形を呈する。柱穴は堆積土中に焼土ブロックが混入しており、柱の抜き取り穴は確認されない。西側は掘方が検出されなかったことから、第 27 次（平成 18 年）調査の 3 区との間に東へ延長すると想定される。また、北側の掘方 2 基は掘方が重複して検出されている。そのほか、1 区南側から堆積土中に灰白色火山灰を多く含むピットが 2 基検出された。

2 区からは、土坑、ピットが検出された。3 区からは、柱穴が 6 基確認されたが、建物の構造が確認できる連続した掘方の検出はされなかった。4 区では、上層の多くが攪乱によって乱されており、ピットのみ検出された。

3. 令和 8 年度の調査地点について

今年度の調査では、1 区で SB1 掘立柱建物跡が検出された。この遺構は陸奥国分寺北東部における建物配置や構造を解明するうえで重要な遺構であると考えられる。よって、令和 8 年度は 1 区を拡張し SB1 掘立柱建物跡の延長及び構造を確認するための調査を実施したい。（②図）

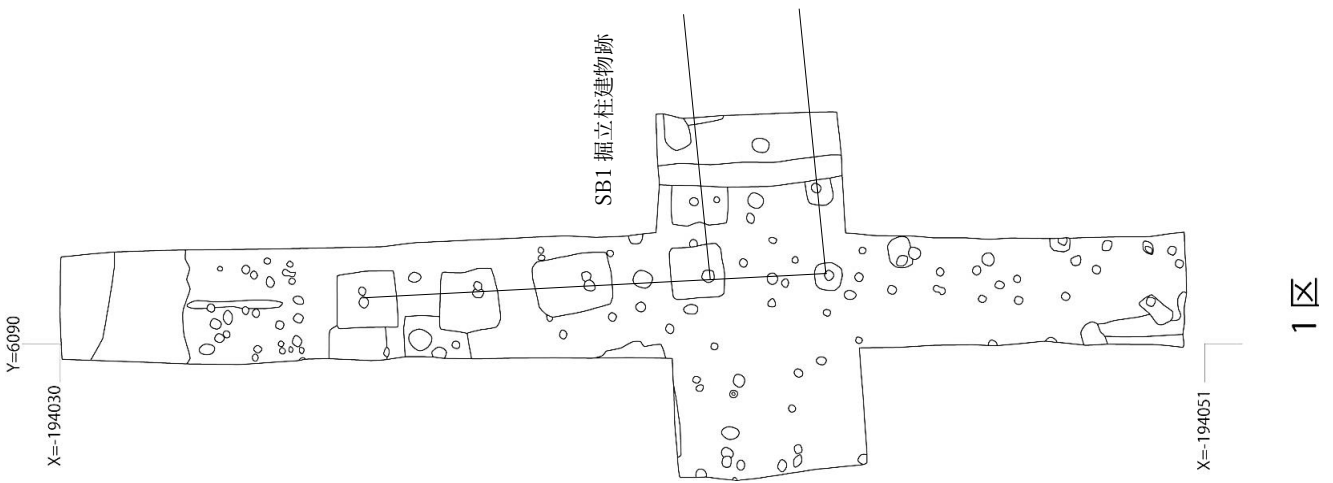


① SB1 掘立柱建物跡検出状況（南東から）



② 調査区位置図

1/200



③ 各調査区平面図